

公共事業再評価調査

主管課：農地水利課

1 事業概要	事業名：県営畑地帯総合整備事業(担い手育成型)				
	事業種別：土地改良事業		事業主体：沖縄県		当初事業期間：H12～H17
	事業箇所：具志頭村安里		根拠法令：土地改良法		事業期間：H12～H19
	総事業費(百万円)：973		費用内訳：国庫 75%		事業量：区画整理, 23ha 畑地かんがい57ha
(整備目的)	<p>本地区はさとうきび、野菜作を中心とした農業を行っているが、現況農地は不整形で道排水路、畑地かんがい施設も未整備である。また、島尻マージ土壌地帯で耕土深が浅く所々に露頭岩が点在しているため、機械化が阻害され、さらに農業従事者の高齢化により厳しい営農状況となっている。</p> <p>このため、区画整理、畑地かんがい施設の整備を行うことにより、作物の反収増、農地の集団化、農作業の機械化、高収益性の作物への転換を進め、また担い手農家の育成を図ることにより、安定的な農業経営を目指すこととする。</p>				
2 再評価 該当項目	<input type="checkbox"/> ①事業採択後10年を経過 <input type="checkbox"/> ②事業採択後5年を経過して未着工 <input type="checkbox"/> ③再評価後一定期間(年)を経過 <input type="checkbox"/> ④事業の中止 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤その他(事業採択後5年を経過)				
3 再評価に至った 主な要因 (具体的理由)	<input type="checkbox"/> ①用地取得の困難 <input type="checkbox"/> ②調査・設計の困難 <input type="checkbox"/> ③事業の拡大 <input type="checkbox"/> ④予算の確保 <input type="checkbox"/> ⑤手続き・法令の問題 <input type="checkbox"/> ⑥他事業との関係 <input type="checkbox"/> ⑦整備効果の問題 <input type="checkbox"/> ⑧当初計画の長期 <input checked="" type="checkbox"/> ⑨その他(施工同意の取得難)				
	<p>本地区は、平成12年度に事業採択されたが、自力整備・相続問題・換地計画への不満等で受益者の施工同意の取得が難航したことにより、調査設計が遅れる等、計画的な進捗が図れず事業が遅延した。しかし地元説明会を重ねた結果、農地集団化への理解や相続関係者への同意が得られる等、区画整理・畑地かんがい整備の必要性が認識され、整備に対する要望が高まっている。</p>				
4 事業の進捗 状況 (H17.4月時点)	項目	事業費	区画整理	畑地かんがい	
	計画	973	23ha	57ha	
	実施済	388	4.6ha	26.8ha	
	率	39.9%	20.0%	47.0%	
5 事業効果の 評価指標 (耐用年数:51年) (基準年:H17) (単位:百万円)	①農業生産向上効果		211	①総事業費(関連事業費込み) 3,521	
	②農業経営向上効果		1		
	③年総効果額(①+②)		212		
	④還元率×(1+建設利息率)		0.0478		
	⑤妥当投資額(③÷④)		4,437		
	投資効率=妥当投資額÷総事業費(関連事業費込み) = 4,437 ÷ 3,521 = 1.25				
6 事業を巡る状況 の変化	<p>①社会・経済：本村はさとうきび、野菜作を中心とした農業が行われており、近年は花卉(キク)・マンゴー・紅イモ・ピーマン等の栽培が盛んに行われている。</p> <p>②地元・自治体：本村は農業基盤整備が順調に進む中、本地区においても整備に対する要望は強い。</p> <p>③利害関係者：受益者と施行調整を図りながら円滑に事業を進めている。</p>				
7 事業の必要性・ 効率性	<p>①事業の必要性・緊急性・有効性など 本地区は、さとうきび・野菜作を中心とした農業を行っている地域であるが、農業従事者の高齢化等の中で、機械の導入を可能とする区画整理の必要が迫られている。また、水源については沖縄本島南部地区国営土地改良事業で整備が済み、効果発現を図るうえからも早期に畑地かんがい施設を整備する必要がある。 区画整理、及び畑地かんがい施設を整備することにより高付加価値農業への転換、担い手農家への農地の集積を事業実施前の17.4%から32%へと増加を見込んでいる。</p> <p>②事業の効率性(代替案等の可能性やコスト縮減) 本事業は、地元説明会を重ねた結果、権利関係者からの同意が得られているため、現計画どおり推進する。</p> <p>③事業効果の発現状況 これまで整備したほ場は、農業機械の稼働効率が向上し、畑地かんがい施設の整備により高収益性の作物へ転換しつつある。</p>				
8 今後の対応・ 見通し	<p>①事業計画等：現計画どおり平成19年度完了する予定である。</p> <p>②対住民関係：具志頭村役場や土地改良区と連携を図りながら、事業を推進している。</p> <p>③執行体制等：現在の組織体制で執行可能である。</p>				
9 対応方針	<input checked="" type="checkbox"/> ①事業継続(現計画) <input type="checkbox"/> ②事業計画(見直し) <input type="checkbox"/> ③事業の中止				